

1 伝え合いを広げるためには

(1) 伝え合いの目的意識と相手意識を明確に持ち、場を設定する。

(交流=違った系統のものが互いに行きかい、入り混じること。文化交流・人事交流

: 岩波国語辞典) 言葉は「伝え合い」「交流」どちらでもいい

なんとなく、グループ学習をさせるということがないようにしたい

(2) グループの段階的指導のありかたをさぐる。

低学年では 中学年では 高学年では

グループの指導をしないまま、グループ学習をさせてはならないか

2 先生方の意欲的な取り組み、発言から明らかになってきたこと

- (1) 自分を持てるから、伝え合いが成立する → 問題解決能力
- (2) 聴き方がいいクラスでは、伝え合いが成立する → 聴き方の指導
- (3) 自分の発表に友達からの反応(教師からではなく)があると、発表してよかったと思える。  
友達と学ぶことがより楽しくなる。 → 伝え合いは学び合い・交流のよさの認識
- (4) 伝え合いについて
  - ① ペア学習は交流の基本 → 1対1の対話能力から
  - ② グループの話し合いの場面をみんなで見合った → グループ指導
  - ③ 手引きを見ながら話し合いの練習をした → グループ指導
  - ④ 自分が発表したとき、みんなにどうしてほしいか子どもに話し合わせた → 伝え合い指導
  - ⑤ 教師が考えそれを教えていくというよりは、子どもとともに伝え合いについて考えていくことで、交流の仕方や方法も高まっていくのではないかと。 → 伝え合い指導
  - ⑥ ハンドサイン、グループの人数、机の並び方(視線を合わせる)の工夫 → 伝え合い指導
  - ⑦ 友達が意見を言ったら、挙手なしで立ち、次々と意見を述べあった → 伝え合い指導
- (5) ふり返ることは、これまでの学びを整理し、さらに前へ進むものとなる → 学びの確認

3 指導案に付け足したいこと

○ 本時の指導の目標に「四角形の和を考え、説明できる。」

答えが分かっている、なぜそうなるのかを説明できなければ合格にしないという考え方は、単に、伝え合いという観点から大切なのではなく、「言葉にできて初めて本当の理解なのだ」「母国語の学習をすべての教科で行う」という観点からも非常に大事な指摘だと思われた。

○ 本時の展開に グループの交流の目的と相手(課題別やテーマ別など)を記載する

これまでも、交流の目的や相手は意識して取り組んでこられたと思うが、それをより明確にするために留意点の部分に、明記してはどうか。

例: 分度器で測ったグループと三角形に分けたグループというように、方法別のグループを作る。そして、それぞれのグループで考えを交流し、自分の考えの不足を補ったり、新たな考えに対して意見をいったりできるようにする。人数は○人とし、短時間でしかも話しやすいようにした。